

標準委員会 システム安全専門部会 炉心燃料分科会
第 35 回 (S1SC35) 議事録

日 時：2025 年 10 月 1 日(水) 13:30～14:15

場 所：オンライン会議にて開催

出席者（敬称略）：

委員：天谷主査(JAEA)、牟田副主査(阪大)、成川幹事(東大)、北島委員(電中研)、
大川委員(電通大)、鈴木委員(JANSI)、本谷委員(東芝 ESS)、福田委員(MHI)、
安田委員(日立 GE)、草ヶ谷委員(GNF-J)、笹川委員(NFI)、鶴田委員(東電 HD)、
田伏委員(関電)、勝部委員(原電)、計 14 名

(欠席委員 3 名：大石委員(阪大)、河村委員(電中研)、黒崎委員(京大))

常時参加者：阿部(東大)、根本(JAEA)、大脇(東芝 ESS)、中西(原電)、金子(GNFJ)、浦野(中
電)、 計 6 名

常時参加者候補：三輪(NEL)、中森(電中研)

オブザーバ：村上(MHI)、計 1 名

全 29 名出席(オブザーバを除く)

配付資料：

S1SC35-1 第 34 回分科会議事録(案)

S1SC35-2 人事について

S1SC35-3 LUA 標準に関する状況について

S1SC35-4-1 原子力学会 2025 年秋の大会 ATF 企画セッション報告

S1SC35-4-2 秋の大会 ATF 企画セッション発表資料

S1SC35 参考-1 LUA 標準(公衆審査用)

S1SC35 参考-2 炉心燃料分科会 名簿

1. 出席者確認

天谷主査によって出席者が確認された。委員出席者数は 13 名であり、分科会の定足数(委員数 17 名の 2/3 以上)を満たすことが確認された。

2. 人事について (S1SC35-2)

MHI 福田委員から、S1SC35-2 により説明され、原子力エンジニアリング三輪様、電力中央研究所中森様、関西電力 多治見様の常時参加者の登録が分科会長により承認された。また、原子

力エンジニアリング今村様、関西電力宇多様の常時参加者登録の解除が報告された。

3. 第 34 回分科会議事録(案)の確認 (S1SC35-1)

MHI 福田委員より、資料 S1SC35-1 の通り前回（第 34 回）の議事録(案)が報告された。当該議事録は、分科会委員には事前送付されており、すでに確認されており、分科会終了時点で、(案) をとって確定した。

4. LUA 実施標準の状況について (LUA 検討 WG) (S1SC35-3)

電中研・北島委員より、資料 S1SC35-3 により、最新の状況として 9/3 回債の第 101 回の標準委員会にて LUA 実施基準へのコメント対応が承認され、9/10 から公衆審査となつた(11/9 まで)旨、報告された。

5. ATF 企画セッションの報告 (S1SC35-4-1)

資料 S1SC35-4-1 に基づいて、常時参加者の阿部先生（システム安全専門部会長）から、9/11 に原子力学会秋の大会における ATF 企画セッションの状況について、報告をいただいた。4人の発表者（阿部常時参加者、MHI 福田委員、関電荻田様、JAEA 山下常時参加者）の発表の後、発表者と来場者との総合討論形式で、「ATF の導入の動機付け」と「国全体として進めていくための工夫やそれによる課題の解決の可能性」の主に 2 つの論点を示しながら、規制関係者を含む来場者との多数の意見交換や質疑応答が行われ、盛況なセッションとなつた旨、報告された。

6. ISO/DIS のレビュー結果の報告

MHI 福田委員より、一昨年度 (NP) 、昨年度 (CD) に引き続き、DIS として、ISO 規格案の “Reactor technology – Power reactor analysis – Steadystate neutronics methods” のレビューを、日本側の窓口である電気協会からの依頼として、炉心燃料分科会の関係者で行った結果が報告された。昨年度、回答したコメントも実質反映されていることを踏まえ、DIS 案へ賛成の回答を専門部会に行った旨報告された。

【参考】ISO 規格は、下記の検討段階を経て規格化が行われる。

- NP (New Proposal) 規格提案 ※改定の場合は SR (Systematic Review)
- CD (Committee Draft) 委員会原案 ※ CD はコメント提出のみで、賛否の投票はなし
- DIS (Draft International Standard) 國際規格案 (⇒ 今回レビュー)
- FDIS (Final International Standard) 最終国際規格案 ※ この段階はスキップされることもある。
- IS (International Standard) 國際規格 (DIS または FDIS が承認されると国際規格として発刊)

7. その他

7.1 2025 年度 倫理教育の分科会での実施

MHI 福田委員より、2025 年度の標準委員会での倫理教育を今年度も、システム安全専門部会、分科会へ展開されており、炉心燃料分科会では、昨年度と同様、ビデオ視聴後に委員を中心に意見を提出いただくとともに、それをカテゴライズする形で集約した結果をもとに、

次の分科会で意見を交わしていただきたい旨、依頼があった。

7.2 2026年度 5か年計画等の検討

システム安全専門部会幹事より、5か年計画の更新の依頼があった旨紹介あった。これに對して、天谷分科会長からまずは、分科会3役を中心に案を作成し、その後分科会メンバーに確認いただく方向の進め方の提案があり、承認された。

7.3 ATF技術レポートの今後の作業ターゲットについて

今年度の夏季セミナー、秋の大会の企画セッション等を重ねて ATF 技術レポートの目指すところや基本的骨子が明確な公知化が図られたことを踏まえ、今年度下期に ATF 技術レポートの作りこみを加速する素地が整った旨、福田委員から紹介あり。天谷分科会長から、今年度末あたりへのシステム安全専門部会への報告がターゲットとして適切ではないかとの意見が示された。さらにシステム安全専門部会長の阿部先生から、すでに骨子とはいえ、システム安全専門部会には中間報告がなされていることから、次回の報告は基本最終報告として位置付けてほしいとの依頼があり、分科会として了解された。

以 上

以 上